

美術史学会 美術館博物館委員会シンポジウム 2016

## 境界／ボーダーを越えて—未来の学芸員のために

日時	2016年4月16日(土) 10:30 - 16:30
場所	国立国際美術館 地下一階講堂
主催	美術史学会、国立国際美術館
後援	全国美術館会議、日本アートマネジメント学会、文化資源学会

### スケジュール

- 10:00 開場
- 10:30 - 10:45 挨拶  
鈴木廣之(美術史学会代表)  
山梨俊夫(国立国際美術館館長)
- 10:45 - 12:00 司会: 泉武夫(東北大学)  
基調報告  
後小路雅弘(九州大学)  
プレゼンテーション 1  
「過疎地域におけるアートの可能性を考える」  
楠本智郎(つなぎ美術館学芸員)  
プレゼンテーション 2  
「『美術』の外側にあるもの」  
榎野展正(キュレーター／元・鞆の津ミュージアム)
- 12:00 - 13:00 休憩
- 13:00 - 14:30 司会: 内田啓一(早稲田大学)  
プレゼンテーション 3  
「教育普及活動」の終焉 — ケアの場としてのミュージアム」  
稲庭彩和子(東京都美術館学芸員)  
プレゼンテーション 4  
「地方美術館の“理想型”を目指して ~ 青森県立美術館の場合」  
工藤健志(青森県立美術館学芸員)  
プレゼンテーション 5  
「美術館の社会的必要性が問われるとき」  
山内宏泰(リアス・アーク美術館学芸員)
- 14:30 - 14:50 休憩
- 14:50 - 16:30 全体討議・質疑  
モデレーター: 川浪千鶴(高知県立美術館企画監兼学芸課長)  
楠本智郎、榎野展正、稲庭彩和子、工藤健志、山内宏泰

## 開催趣旨

美術史学会の美術館博物館委員会では、日本のミュージアム(美術館・博物館等)の現況をめぐって、2003年より毎年シンポジウムを企画しています。

今、日本のミュージアムを取り巻く状況は厳しいものです。予算の縮小やそれに伴う職員数の削減、さらには市民のニーズの多様化とそれへの応答が強く求められており、その運営において従来の方法論を踏襲するだけでは限界があります。今年のシンポジウムでは、そのような厳しい状況の中で、既存のさまざまな制約や困難を乗り越えようと努力し、新たな可能性を切り開いている学芸員の活動に焦点を当て、その可能性と課題を探り、ミュージアムの将来像を展望します。

現在日本のミュージアムに求められているのは、これまでの枠を越えた連携や視点、新たな方法論です。今回焦点を当てるのは、さまざまな制約の中で、地域社会に浸透し、ゆるやかなネットワークを結び、ミュージアムの可能性を広げている個人やミュージアムの活動です。予算的にも人員的にも潤沢ではない小規模なミュージアムながら、地域社会との連携やユニークな視点で活動を続ける〈つなぎ美術館／楠本智郎、鞆の津ミュージアム／榎野展正〉、積極的な教育普及活動と地域のミュージアムの連携によって新たなミュージアム像を描く〈東京都美術館／稲庭彩和子〉、地方公立美術館のあらたな連携を模索する〈青森県立美術館／工藤健志〉、「震災被害」を地域文化の重要な要素として展示することで地域社会にコミットする〈リアス・アーク美術館／山内宏泰〉を発表者に迎え、それぞれの活動の紹介、及び全員でのパネルディスカッションを通して、今日のミュージアムの課題と未来の可能性を探ります。

## 発表要旨

プレゼンテーション 1 / 楠本智郎(つなぎ美術館学芸員)

### 過疎地域におけるアートの可能性を考える

社会教育事業として地域資源の再評価と人材育成を目指す「住民参画型アートプロジェクト」。空き家問題解決の糸口を探る「アーティスト・イン・レジデンスつなぎ」。道路整備事業をきっかけに始まった「つなぎの根っこ」。いずれのプロジェクトも緩やかな住民ネットワークとセクションを越えた本庁職員の協力に支えられている。都市部から離れた4900人の町にアートは何をもたらすのか。試行錯誤の日々から見えてきたものとは。

プレゼンテーション 2 / 榎野展正 (キュレーター／元・鞆の津ミュージアム)

### 「美術」の外側にあるもの

広島県福山市鞆の浦にある築150年の蔵を改修した鞆の津ミュージアム。2012年の開館以来、障害者をはじめ確定死刑囚やヤンキーなど社会の周縁で生きづらさを抱える人たちの表現を多く取り扱ってきた。新しく始めるギャラリーにおいても、「美術」の外側で活動続ける表現者たちを多く紹介し、「作品」だけではなく、その作家が見ている世界観にも焦点を当てることで、どのような生き方が「よい生き方」と言えるのかを世の中に問い続ける。

プレゼンテーション 3 / 稲庭彩和子（東京都美術館学芸員）

### 「教育普及活動」の終焉 — ケアの場としてのミュージアム

美術館は展示物を通して思考を促す「自己と他者との対話の空間」であり、その特質をもって社会や個人に寄り添おうとしている。そうした文化財を介しての対話は、私たちの世界への関わりを更新しケアを促す機能を持っている。この種のケアが起こる対話を生むには「教育し、普及する」活動を今一度ゼロから見直し、当事者意識が発生する、人と物との関わり合いのデザインを考える必要性が出てくる。ここ5年多様な市民と共に試行錯誤してきた実践を紹介したい。

プレゼンテーション 4 / 工藤健志（青森県立美術館学芸員）

### 地方美術館の“理想型”を目指して ～ 青森県立美術館の場合

今年度開館10周年を迎える青森県立美術館。縄文の遺跡から着想を得た建築に加え、コレクションの軸足も「青森」に置くことで、その個性を際立たせている。美術のみならず演劇、音楽、映画、文学と多彩なジャンルを扱い、美術についてもこれまでその枠組みからこぼれ落ちてきたものを積極的にすくいあげ、紹介してきた。そんな「拡張された美術館」のあり方を模索しつつ、「青森」をとおして「世界」や「現代」がどう見えてくるのかを探る。そうした10年の歩みを振り返りながら、「地方」の美術館の「あるべき姿」について考えてみたい。

プレゼンテーション 5 / 山内宏泰（リアス・アーク美術館学芸員）

### 美術館の社会的必要性が問われるとき

2011年に発生した東日本大震災は、それ以前から衰退の一途をたどっていた小規模な地方都市に甚大な被害を及ぼした。リアス・アーク美術館が所在する宮城県気仙沼市も同様の状況にあったが、被災社会に必要な施設として当館は再開を許された。

地域社会を停止させるほどの大災害が発生すれば、美術館の社会的必要性が問われることになる。本発表では美術館が地域にある意味、地域に貢献し、地域を越えて果たすべき役割について述べる。

## パネリスト略歴（発表順）

楠本智郎 Kusumoto Tomoo / つなぎ美術館学芸員

1966年福岡市生まれ。大阪芸術大学芸術学部卒業。鹿児島大学大学院修士課程修了。大学院では日本民俗学を専攻し在学中から博物館開設の準備などに携わる。タイ国立大学常勤講師等を経て2001年から現職。地域密着型アートプロジェクトの功罪を踏まえたうえで、過疎地域におけるアートの可能性を探るため実践を重ねている。2016年1月には『赤崎水曜日郵便局』（KADOKAWA）を上梓。つなぎ美術館唯一の学芸員。

櫛野展正 Kushino Nobumasa / キュレーター／元・鞆の津ミュージアム

1976年生まれ。2000年より知的障害者福祉施設職員として働きながら、広島県福山市鞆の浦にある鞆の津ミュージアムでキュレーターを担当。2016年4月よりアウトサイダーアート専門ギャラリー「クシノテラス」オープンのため独立。社会の周縁で表現を行う人たちに焦点を当て、全国各地の取材を続けている。

稲庭彩和子 Inaniwa Sawako / 東京都美術館学芸員、アート・コミュニケーション担当係長

1972年生まれ。青山学院大学修士、ロンドン大学UCL修士修了(Museum Communication)。東京国立博物館にて非常勤の後、助成を得て渡英。大英博物館にて2年間職業研修。帰国後、神奈川県立近代美術館にて地域プロジェクトや鑑賞教材の企画、展覧会を担当。2011年より東京都美術館に勤務し「とびらプロジェクト」や参加型展覧会「キュッパのびじゅつかん」等を企画。共著に『100人で語る美術館の未来』（慶應義塾大学出版会）等。

工藤健志 Kudo Takeshi / 青森県立美術館学芸員

1967年福岡県生まれ。田川市美術館を経て、青森県立美術館には準備室時代から在籍。専門は戦後日本美術。「美術館」という制度や「展覧会」という枠組みを拡張・強化するための試みを多く手がけている。各地で開催した「青森県立美術館展」のプロデュースや美術館を書籍で構築する『青森県立美術館コンセプトブック』を編集。また地方3館の学芸員で「トリメガ研究所」を結成し、「ロボット」や「美少女」をテーマにした視覚文化史展も開催。

山内宏泰 Yamauchi Hiroyasu / リアス・アーク美術館学芸員

1971年宮城県石巻市生まれ。現在、リアス・アーク美術館学芸員(学芸係長)。美術家、舞台美術家、衣装家。スローフード気仙沼理事／平成24～27年度国立歴史民俗博物館共同研究員／気仙沼市東日本大震災伝承検討会議委員／気仙沼市東日本大震災遺構検討会議委員。専門は美術教育、造形理論。その他地域文化教育、津波災害史。リアス・アーク美術館常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」企画担当。

### ● ご協力をお願い

会場内飲食は禁止です／録音・撮影はご遠慮下さい／会場内は自由席です／貴重品はご自身で管理下さい  
携帯電話は音の出ない状態にするか、電源をお切り下さい